

# フランチュク・セルゲイ氏 (チェルノブイリ 30km ゾーン内ガイド)

## 来日連続企画

3/18 飯舘村・3/20 二本松市・3/24 東京都

チェルノブイリ原発事故が発生してから 32 年を迎えようとしている現在、原発から半径 30 km圏内は立入り禁止区域（以下ゾーンと呼ぶ）となっている。事故により約 13 万 5 千人がゾーンから強制移住させられた。しかし、様々な事情から事故の翌年以降約 2,000 人の人々が違法と知りながらも戻ってきた。彼らのことをいつしか、サマショーロと呼ぶようになった。ゾーン内に暮らす違法居住者の老人たちを例に福島の将来を予測する。

### ① ウクライナと福島交流会「高齢者の終の<sup>つい</sup>住<sup>すみ</sup>処を考える」

日時 平成 30 年（2018 年）3 月 18 日（日）13:00 ～ 15:30（開場 12:30）

場所 飯舘村交流センター(ふれ愛館) 福島県相馬郡飯舘村草野太師堂 17

Tel 0244-42-0072

講演 フランチュク・セルゲイ氏『サマショーロの老人たちの今』

講演 伊藤延由氏『身の回りの放射能汚染測定を通して福島県飯舘村に居住することの意味を考える』（調査研究助成：高木仁三郎市民科学基金）

飯舘村民とのパネルディスカッション（若者代表、老人代表、農家代表、村代表）

進行；木村真三（放射線衛生学者；獨協医科大学国際疫学研究室福島分室）

主催 ゼロ Fuku, 科研費基盤研究(C)16KT0122, 科研費基盤研究(B)26293485

共催 認定 NPO 法人 ふくしま 30 年プロジェクト

協力 NPO 法人ふくしま地球市民発伝所

## ②チェルノブイリと福島をつなぐタベ

日時 平成30年(2018年)3月20日(火)18:00～20:30(開場17:30)

場所 二本松市コンサートホール 福島県二本松市亀谷1-5-1

Tel 0243-22-5501

- ウクライナ視察報告；横山真由美氏「チェルノブイリと福島をつなぐ」
  - 緊急発言；坂本充孝氏(東京新聞編集委員)「県内汚染土の再利用問題」
  - フランチュク・セルゲイ氏(チェルノブイリ30kmゾーン内ガイド)
- × 木村真三(放射線衛生学者；獨協医科大学)対談

『チェルノブイリからの警告；

汚染地域に暮らす高齢者や独居者に必要な施策、支援とは？』

- 遠藤ミチロウさん(二本松出身のロックシンガー)ミニライブ
- 現代美術家「凜」さんの紹介
- 訴え；馬場 績氏(浪江町町議)

「福島の未来をチェルノブイリにさせないために」

\*終了後 「凜」さんのポストカードチャリティ販売

遠藤ミチロウ：福島県二本松市出身のロックミュージシャン。1980年代から1990年代に活動していたパンク・ロックバンド、ザ・スターリンの結成者でありヴォーカリスト。スターリン解散以降はソロ、アコースティックバンドで活動し、還暦を越えた現在も精力的にライブ活動を行っている。浪江で亡くなった全ての人への鎮魂歌「NAMIE(浪江)」は今回のミニライブでもメイン曲として演奏される。



凜：明朗美術連盟の設立者であり初代代表の落合朗風の最後の内弟子、4代目代表東条光顕に師事。神戸市北野で2008年7月に開設したART SALON「神戸画廊喫茶 GIGI 北野」を拠点に現代美術家としての活動を行っている。現在、若手アーティストたちの感性を伸ばし、あらゆるジャンルの芸術を融合させ、北野の地でモンマルトルを再現するため支援を続けている。

会津出身の東条を通し福島を身近に感じていた凜は、阪神淡路大震災を経験した記憶から福島第一原発事故に鮮烈なインスピ

レーションを感じ、その光景を抽象的に表現した作品を残している。

また、今回の企画でミニライブを行う遠藤ミチロウが、いわき市川前町で行なった盆踊りでパンク民謡をバックにライブペイントを行った。死者の魂を鎮める盆踊りとパンク民謡と絵画が織りなす現代アートの融合が福島から始まった。

今回のイベントでは作品をモチーフにしたポストカードの販売をおこない、その収益を「ゼロFuku」の活動の支援にあてていただくことになった。

主催 ゼロ Fuku, 科研費 (C)16KT0122 原発事故被災地域に生きる高齢者の尊厳と  
「終の住処」のあり方に関する研究

共催 認定 NPO 法人 ふくしま 30 年プロジェクト

協力 NPO 法人ふくしま地球発信所、とうわ放射線学習会

### ③ 原発事故被災地からの報告「高齢者の終の住処」

第 88 回日本衛生学会学術総会 市民公開講座シンポジウム 20

座長；木村真三（獨協医科大学国際疫学研究室；准教授）

千葉百子（順天堂大学医学部衛生学教室；客員教授）

日時 平成 30 年（2018 年）3 月 24 日（土）15:30～17:20

場所 東京工科大学

〒144-8535 東京都大田区西蒲田 5-23-22 （蒲田駅西口より徒歩約 2 分）

講演者

ウクライナ環境省チェルノブイリ非常事務局

フランチュク・セルゲイ氏

浪江町町議会議員

馬場 績氏

二本松市東和地区住民

大槻順子氏

獨協医科大学 国際疫学研究室

木村真三

※本シンポジウムへの参加は、以下の URL より申込ください。

<http://procom-i.sakura.ne.jp/shogoiwa/app/public/apply.php?mode=init&id=3>

（先着 200 名、3 月 6 日締切）

電話・FAX での対応は、3 月 10 日まで受付を行います。

二本松市放射線被ばく測定センター

Tel0243-24-8110

Fax0243-22-8255

なお、木曜日は休館日となっております。

~~~~~

※上記連続企画の入場はすべて無料ですが、招聘や企画実施にかかる費用が足りて  
いません。会場でのご寄付に協力いただくと助かります。

※「ゼロ Fuku」について

チェルノブイリ30kmゾーン内ガイド、フランチュク・セルゲイ氏の招聘を期に立ち上がった市民団体。「ゼロ Fuku」は「核」に依存しない世界、持続可能な世界を実現するために、福島（Fukushima）を発信基地として、国境を超えて世界の人々とのつながりを広げてゆきます。 代表 木村真三（獨協医科大学）

連絡先：ゆいまある

電話：0243-24-5877

メール：[giminimadoki50@gmail.com](mailto:giminimadoki50@gmail.com)